



伊丹十三監督作品

お葬式

井上悦助 山崎努

兩宮千鶴子 宮本信子

兩宮きく江 菅井きん

兩宮正吉 大滝秀治

里見財津一郎

海老原江戸家猫八

兩宮真吉 奥村公延

綾子 友里千賀子

茂尾藤イサオ

明岸部一徳

青木津村隆

木村夫人 横山道代

花村夫人 西川ひかる

キヨちゃん 海老名美どり

正吉の妻 双葉弘子

冠婚葬祭の先生 関弘子

岩切のおおあさん 吉川満子

小さい老人 藤原釜足

老人 田中春男

老人会会長 香川良介

黒崎 佐野浅夫

奥村 関山耕司

榎原 左右田一平

海老原の部下1 加藤善博

海老原の部下2 里木佐甫良

フクちゃん 金田明夫

木のほり 青年 利重剛

会計の女 中村まり子

守衛 福原秀雄

木村先生 津川雅彦

猪ノ瀬 小林薫

斉藤良子 高瀬春奈

住職 笠智衆

カラースタンダードサイズ
2時間4分

笑いながら、あれ、なぜか涙が――



製作 玉置泰・岡田裕
プロデューサー 細越省吾
脚本 伊丹十三
撮影 前田米造
照明 加藤松作
録音 信岡実
美術 徳田博
音楽 湯浅譲二
編集 鈴木暁
黑白部分撮影 浅井慎平
キャスティング 笹岡幸三郎
助監督 平山秀幸
製作担当 藤田義則
製作/㈱ニユー・センチュリー・プロデューサーズ+伊丹プロダクション
配給/㈱日本アートシネター・ギルド

atg



「お葬式」

ノート

映画

1 伊丹十三の第二回監督作品である。
2 初め「佗助たちの秋」という題名で書かれたが、製作日程上、初夏の話になったのでこの題名は使えず、なかは自棄気味で「お葬式」と名づけられた。縁起をかつぐ興行界ではこの題名に「二の足を踏む者も多かったが、映画の仕上がりをみるや、一転して「よい題名だ」との評価に転じた。
3 昨年九月、伊丹夫人、宮本信子の父君が亡くなった。その際葬儀を主宰した伊丹はこれはまるで映画だ」と感じ、わけても火葬場で夫人と並んで煙の出る煙突を見上げた時には「小津安二郎の映画の中へ入ってしまった」ような感動を覚えたという。
4 脚本は今年の一月に約一週間で書き上げられた。
5 この脚本にいち早く興味を持った伊丹の年来の友人岡田裕（NCP社長「家族ゲーム」）が製作面での協力を、玉置泰（二六タルト常務）が資金面での協力を約し、かくして四月、映画は早くも製作体制に入ったのである。

河原にある伊丹邸を舞台に克蘭ク・インシしたのである。
8 監督が新人であったため、スタッフはベテランが選ばれた。カメラの前田米造（「家族ゲーム」メインテーマ）を中心に、照明・加藤松作、録音・信岡実、美術・徳田博らが集結。そして編集には日本フィルムエディター界の一方の雄である鈴木朧（「南極物語」「愛情物語」）それに、音楽には現代の日本を代表する作曲家の一人である湯浅譲二（「悪魔島」）が加って、いかにも「大人の鑑賞に耐える」映画らしい、質の高いスタッフになった。なお映画の中のモノクローム部分の撮影は、写真家の浅井慎平が担当している。
9 伊丹監督の克蘭ク・インの弁。「私の目的はただ一つ。映画らしい映画を作りたい。ただそれだけです。この作品の中では、葬式というふるさとの儀式の中に突然投げこまれた都会人たちの滑稽にして悲惨な混乱ぶりを涙と笑いのうちに描きたい。幸い脚本は評判よく、また最高のキャストティング、最高のスタッフ編成ができたので監督としてはみんなの仕事ぶりをただ眺めていればよいのではないか」
10 この言葉とは裏腹に、伊丹の演出は想像力ゆたかに、かつ厳密をきわめ、実数三千五日の撮影期間をスタッフ、キャストを引張つて、火の玉の如く燃え続けたのである。
11 この映画は、突然肉親の死に見舞われた俳優夫婦が、慌てふためきながらも、人々の助けを借りて、なんとか無事お葬式を出し終る

までの厳粛にして出鱈目な三日間を描いたものであるから格別「あらずし」のようなものは必要あるまい。以下、試写室で拾った声をストーリー順に並べて「あらずし」に替えよう。
● 死を予期した老人がテラスへ向かう。死つて孤独なんだあとと思つた。（大学生21才）
● 宮本信子さんの千鶴子が父の死を知られるところ。人生の残酷さがよく出ていた書店店員24才
● 千鶴子が巨大な芸者になつて出てくるけど、どういうトリックなのだろうか（中学生13才）
● 佗助一家が車で伊豆へ向かうシーン。日本映画が遂に到達した、最も美しく出鱈目なカーチェイス（ボルノ映画監督28才）
● 商売柄映画の中の死体には興味を持つていますが、奥村公延氏の死体は本当に死んでいるみたいだった。日本映画史に残る死体です（葬儀社経営63才）
● お棺が階段を運び上げられるところはヒッチコックみたいだった。俺なら棺が落つて死体が転がり出し、それをちやうど走ってきた車が轢くというふうにするね（タモリ、テレビタレント39才）
● 猫八さんの眼鏡が面白かった（イワキ眼鏡店勤務38才）
● 冠婚葬祭入門のVTRが出てくるが、挨拶の仕方がよくわかり勉強になった。若い人に見てもらいたい映画だ会社社長68才）
● モノクロ、サイレントの部分、バツハのアリアが美しく泣いた。全部これで作つてはしかった（コピーライター23才）

● 高瀬春奈のパンティにびっくりした（スタイリスト21才）
● 高瀬春奈のお尻にびっくりした（小学生7才）
● それにしても山崎努はなんてうまいんだろう（小田急沿線主婦51才）
● 財津さんが痺れてひっくりかえるところが面白かった（巨人ファン34才）
● 棺に釘を打つところは映画館中がシーンとなった。凄いシーンだ高校生17才）
● 霊柩車つて美しいのね（女子大生20才）
● 霊柩車がぐいぐいと追ってくるところは悪魔的だ桐生市在住浪人21才）
● お棺がかまどに入つてゆくところが凄くと思った（フリーカメラマン27才）
● ドカンとガスがつくところが凄くと思ったガス嫌いの主婦33才）
● 菅井きんさんが長い挨拶をするシーン、感動で全身に鳥肌が立った（天滝秀治・俳優59才）
● すべてを許して佗助を見上げる千鶴子のアップが素晴らしい。宮本信子は菩薩だ（シナリオライター59才）
● こんな映画の作り方もあるんですねえ、ショックでした（映画評論家68才）
12 では最後に伊丹監督からのメッセージ「おいしい御馳走のような映画を作りました。みなさん、温いうちにどうぞ」
13 ではまた映画館で会いましょう。バイバイ。

特別鑑賞券発売中

1. 月 12 日

TEL.321-3357

緊急シネ1